

若者の新鮮な感覚で感じた被災地



仮設訪問でミニお渡し会

高校生～医学生のボランティア

この間、高校生たちのボランティア活動への参加や、医学生ボランティアの方たちの参加が増えています。

高校生の夏休み期間中などの取り組みとして、6月に東京都のD高校、7月に滋賀県のY高校16名、8月に大阪府のG高校41名など多くの高校生が、引率の教員の方々と被災地の視察やボランティア活動に参加されました。

また、7月に兵庫民医連の医学生の方々と医学生担当の事務局の皆さん、8月に東京民医連の医学生の

の皆さんが、ボランティア活動に参加され、さらに被災地石川県の民医連の輪島診療所の友の会の皆さんや、羽咋診療所の友の会の皆さんとの交流も行われました。

参加した高校生は、「TVで見ていた状況とは全く違い、驚きの連続でした。見ないとわからないことが多い、私たちの日常生活は当たり前ではないことを感じました。この経験を家族や友達に話したいと思いました」と感想を述べていました。

また、医学生の方々は、実際に被災地を見ることで、被災者の血圧を測ってあげて、相談にも乗ってあげようと思ってきたのだが、今の私には何も力になれなかったが、医療を志すものとして、志を新たにすることができました話されています。

エアコンのリモコンの操作方法を尋ねられ

引き続きの仮設訪問のなかでも、暑い日が続いておりますが、この中でもお年寄りの方が、「電気代が心

配で…」と、エアコンもつけずに一人でおられている姿を時々目にします。熱中症にならないかと、とても心配になります。

90歳過ぎて仮設に一人暮らしの方もいて、周りの仮設に助けてもらえる方や、相談に乗ってもらえる知人や顔見知りの方がおられる良いのですが、訪問して対話になった方は、知り合いの方がおられず、「二人で大変…」と話します。

訪問したボランティアの方に、「エアコンのリモコンの操作が分からない」とたずねられたとのこと、

緊急にご協力ください

お米の不足

ボランティア活動に支障がでています

◆お米 (23年産以降) ◆レトルト食品 (カレー、スープなど)、缶詰、カップめん類、うどん・そば・そうめんなどの乾麺 ◆菓子類 ◆常温保存できるジュース類、お茶類 ◆洗剤 台所食器洗剤、洗濯洗剤類、柔軟剤、シャンプー、リンス ◆ラップ類 (食品ラップ、アルミホイルなど) ◆トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ウエットティッシュ ◆衣類 (新品の物) 男性用・女性用肌着 Tシャツ など衣類全般

冷房と除湿の切り替え、温度調節の方法、風量の調節などを教えてあげたのとことです。「自宅にいた時は、今までエアコンなんて使ったことなかったの。周りに知っている人もおらず、聞ける人もいなかった」と話され、感謝されています。これまで大きな家で、窓や戸を開け放し、自然の風を取り入れて快適に生活してきた、この能登の地のお年寄りの方々にとっては、仮設の狭さですが、生活環境の変化は大きなストレスなのだろうと感じます。

全国から 生活支援物資をお寄せください ボランティア活動にぜひお越しください